鉄道の開通と青木橋

本覚寺のある丘と幸ヶ谷公園のある丘とは元来ひと続きでした。この丘を切り開き、明治五年（一八七二）、新橋―横浜間に鉄道が通されたのです。この工事に伴い、鉄道をまたいで旧東海道を結んで架けられた橋が青木橋です。当時、神奈川の停車場は、この橋のすぐ南側につくられていました。

その後、明治三十七年（一九〇四）には、後に横浜市電となる横浜電気鉄道が神奈川―大江橋間に、翌三十八年（一九〇五）には京浜電気鉄道が川崎―神奈川間に、また、大正十五年（一九二六）には、東京横浜電気鉄道が丸子多摩川―神奈川間にそれぞれ電車を走らせました。

このように交通の中心地として栄えた青木橋付近も、昭和三年（一九二八）、現在の横浜駅ができるとともに、その中心性は失われていったのです。

「神奈川蒸気車鉄道之全図」横浜開港資料館所蔵

甚行寺

青木橋を渡り、旧東海道の道筋にある宮前商店街に入ると、山側に甚行寺があります。開港当時、甚行寺の本堂は土蔵造でしたが、改造を加えてフランス公使館に充てられたといわれています。

大関東大震災と横浜大空襲によって建物は失われましたが、昭和四十六年（一九七一）に本堂・客殿を再建し、現在に至っています。

境内には横浜市の名木古木に指定されている、樹齢二百年以上のイチョウの古木があります。

普門寺

甚行寺の先に普門寺があります。

普門寺は、洲崎大神の別当寺であったため、「洲崎山」と号し、真言宗智山派に属します。

また、寺号の「普門」は洲崎大神の本地仏である観世音菩薩を安置したことにより、観世音菩薩が多くの人々に救いの門を開いているとの意味で名付けられたと伝えられています。

宮前商店街と旧街道

宮前商店街は、台町あたりとともに、旧東海道の風情を今に留めるところで、この歴史の道のルートでは唯一の商店街になっています。かつて、神奈川宿の「亀の甲せんべい」は有名で、幕府や諸大名の御用達だったといわれます。

近隣のポートサイド地区では「アート&デザインの街」をテーマに、都市型住宅・商業・業務・文化機能が調和した街づくりが進められており、これを機に由緒あるこの地域のあらたな発展が期待されます。